



保湿剤



皮膚を乾燥や刺激から守る作用のある保湿剤。冬は乾燥による肌トラブルも増加します。保湿剤といってもいろいろな種類や特徴があります。目的にあった作用のものをお選びください。

●保湿の種類（効能の違い）

大きく2つに分けて、①水分が蒸発するのを防ぐタイプと②水分を補って潤いを保つタイプがあります。

- ① 角質水分量を増加させるため、肌を柔らかくする作用もあります。（例）ワセリン
- ② 吸湿性と保湿性という2つの効果によって保湿作用を発揮します。（例）ヘパリン含有製剤、尿素製剤
また、①と②の作用を併せ持つ保湿剤もあります。

●ワセリン

油分が多く含まれます。そのため被膜性が高いですが、べたついた使用感が残ります。入浴直後など皮膚が水分を多く含んでいるときに塗るのが効果的です。



●ヘパリン類似物質含有製剤

親水基といわれる部分があり、角質層でしっかりと水分を保持し、うるおいのある肌を保つことができます。

●尿素製剤

水分保持増加作用と角質を柔らかくする作用を持ちます。刺激感があることがあるので使用する場所に注意。

●保湿の種類（形状の違い）

軟膏、クリーム、ローション、スプレー、泡状スプレーなどがあります。乾燥肌や敏感肌などで肌が弱い方には、香り成分など保湿成分以外余分なものが入っていないものをお勧めします。（保湿成分以外の成分でかぶれてしまうことがあります。）



●使用方法について

1日2～3回は塗るようにしましょう。
朝の洗顔後や入浴後など、手足を洗った時は皮膚が乾燥しやすいので、なるべく10分以内に保湿剤を塗りましょう。
保湿剤は塗りこむのではなく、肌のにせるイメージで塗りましょう。
食事やトイレの後、手を洗った際にもできるだけ毎回保湿剤を塗るようにしましょう。
夜間の乾燥を防ぐために、寝る前に保湿剤を塗ることはとても効果的です。

★ピュアタウン薬局おすすめ保湿剤★

- ・ヘパロイド油性クリーム（赤ちゃんや敏感肌にもOK）
- ・パルモアー（プラセンタ配合、しっとりとした潤いの唇へ）
- ・ユースキン製剤（ハンドクリーム、リップクリームなど）

お気軽にスタッフまでご相談ください。

